

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 富野 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

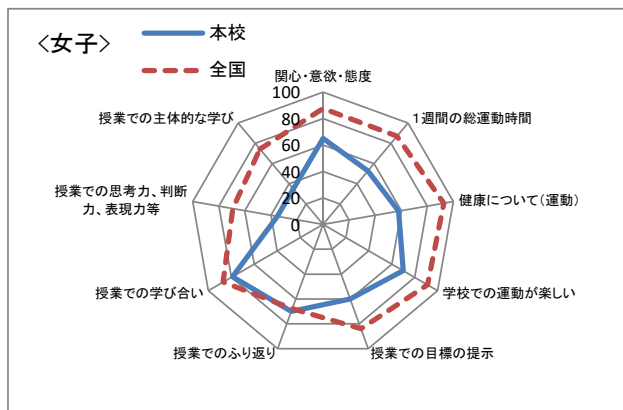
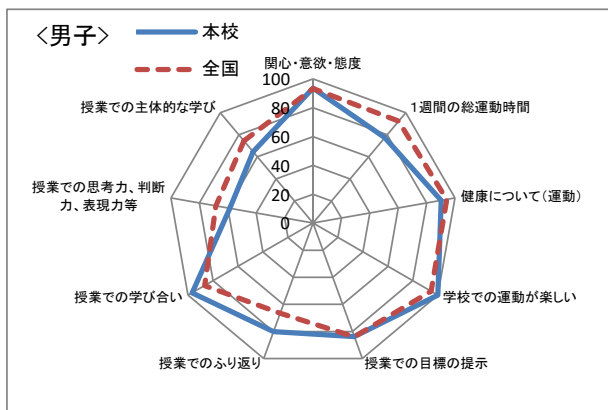
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
本市	16.56	20.49	33.51	42.17	52.49	9.39	153.34	22.91	54.52
本校全国平均以上の種目		○		○			○	○	

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59
本市	16.49	19.55	38.14	40.49	42.02	9.64	147.47	13.79	56.34
本校全国平均以上の種目									

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

「授業での学び合い」、「授業でのふり返し」の項目が高い。特に男子では、「学校での運動が楽しい」「授業でのふり返し」や「関心・意欲・態度」に関する意識については全国平均値とほぼ同等かそれを上回っている。女子では、「思考力、判断力、表現力(自分に合った練習や場を自分なりに選んで活動している)」や「主体的な学び」、「一週間の総運動時間」など各項目が全国平均を下回るなどしており、男女差も含めて今後の課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育科の授業では、様々な「動き」に取り組めるように「パワーアップタイム」を設定するなどして児童が楽しく運動できるように単元の導入やカリキュラム、ゲーム・ルールを工夫する。それにより個に応じた指導の充実を図り、運動への意欲を高めて体力・運動能力の向上を目指す。また、授業の終わりに「きらきら探し」を設定するなどし、自尊感情の向上も図りながら体育科の授業研究をより推進していく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

1校1取組として、年間を通して「いきいき休休み」(運動場に出て遊ぶ)に取り組む、体力向上につなげる。その際、運動種目が偏らないように配慮したり、また、運動習慣の充実を行事等で地域・保護者等へ呼びかけたりする。さらに、中学校と連携し、体育科の授業を中学校教員が指導する機会を設定する。